

2021年3月期 3Q決算補足資料

2021年2月9日
株式会社ウィルグループ（東証一部 6089）



I. 2021年3月期 3Q累計実績

II. 2021年3月期 通期業績予想/配当予想

III. トピックス

IV. 参考資料

*本資料に記載の「売上」は、日本基準の「売上高」、IFRSの「売上収益」
「自己資本比率」は、日本基準の「自己資本比率」、IFRSの「親会社所有者帰属持分比率」をさします。

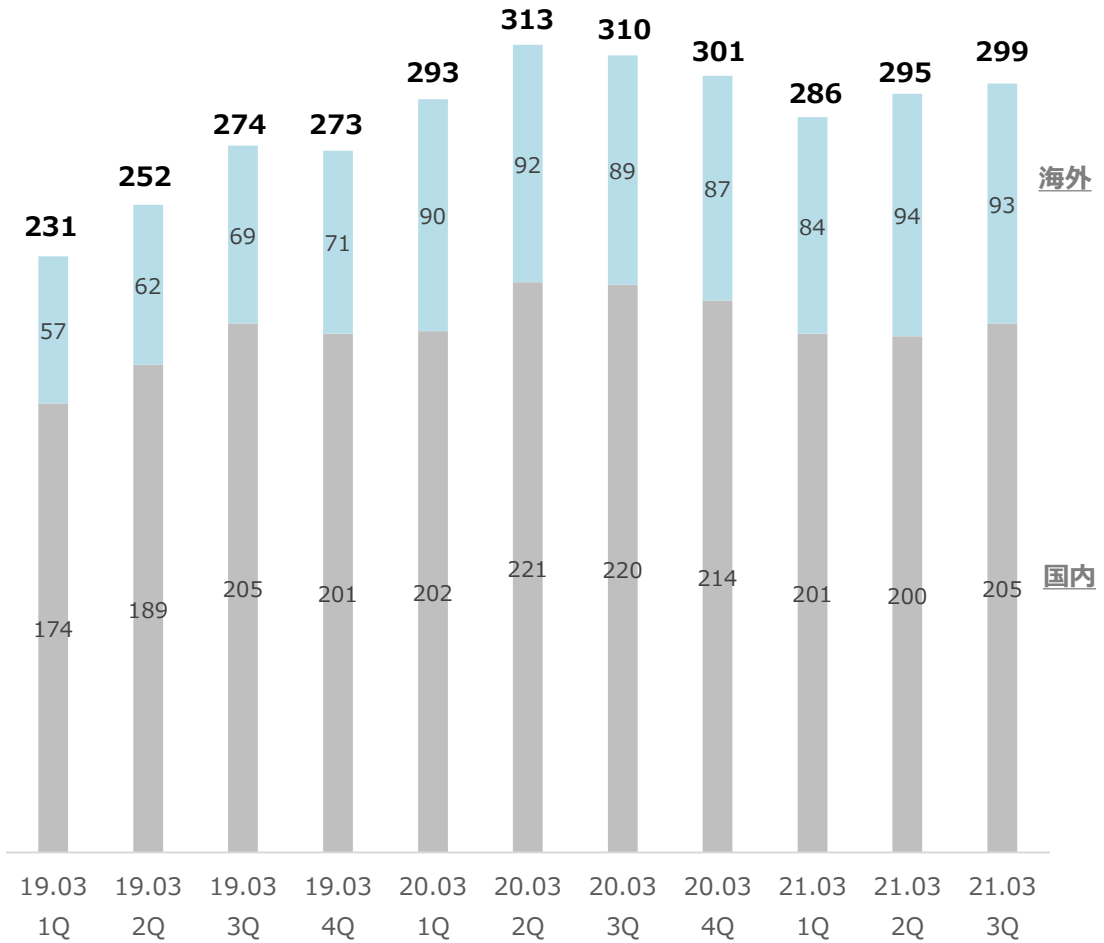
I .2021年3月期3Q累計実績

国内・海外とも、新型コロナウイルス感染症拡大による事業への影響は、着実に収束に向かっている。

(億円)	前期実績	実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上収益	917.7	881.3	△36.3	△4.0%
売上総利益 (売上総利益率)	191.9 (20.9%)	179.1 (20.3%)	△12.8 (△0.6pt)	△6.7%
営業利益 (営業利益率)	33.3 (3.6%)	32.4 (3.7%)	△0.8 (+0.1pt)	△2.6%
税引前四半期利益	32.5	30.4	△2.1	△6.5%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	17.9	18.7	+0.7	+4.4%
EBITDA (営業利益+減価償却費及び償却費)	47.4	48.0	+0.6	+1.4%

従業員数：4,820人
(前年度末比：+332人)

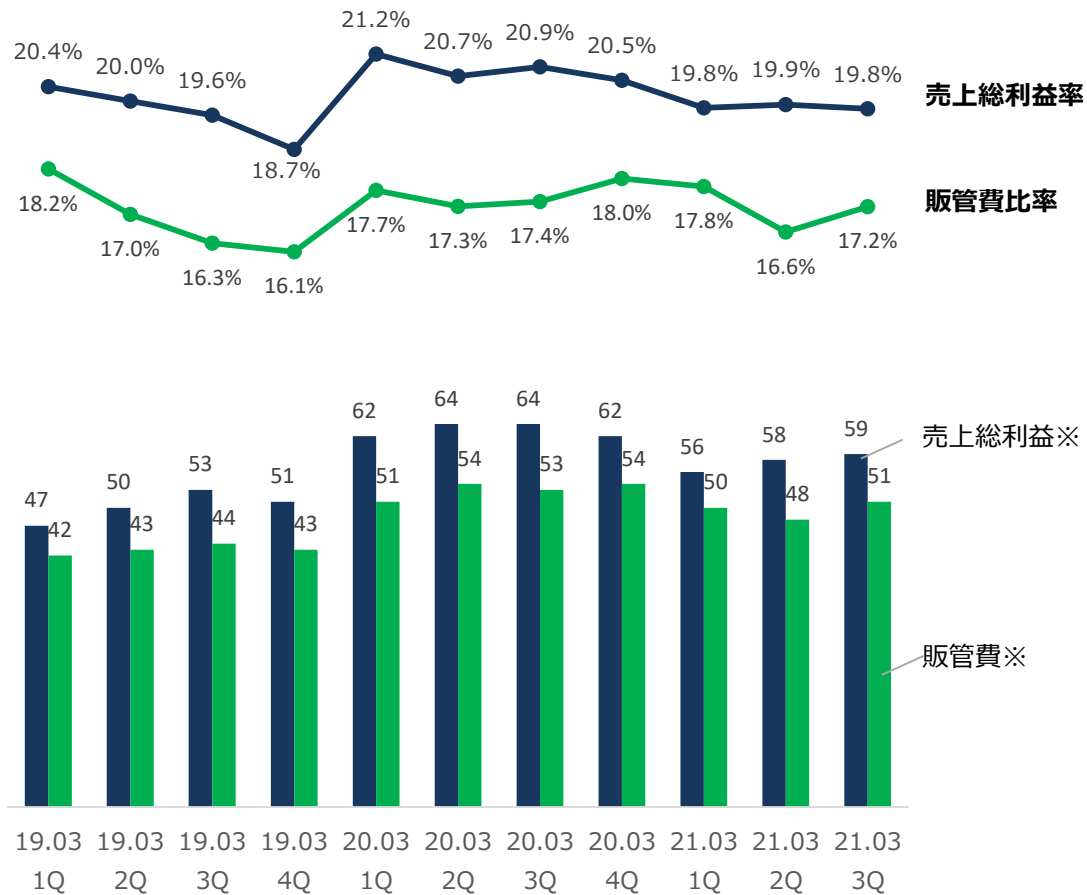
(億円)



21.3期3Qは、
2Q比：+4億円。

→事業へのコロナ影響は、
収束に向かっている。

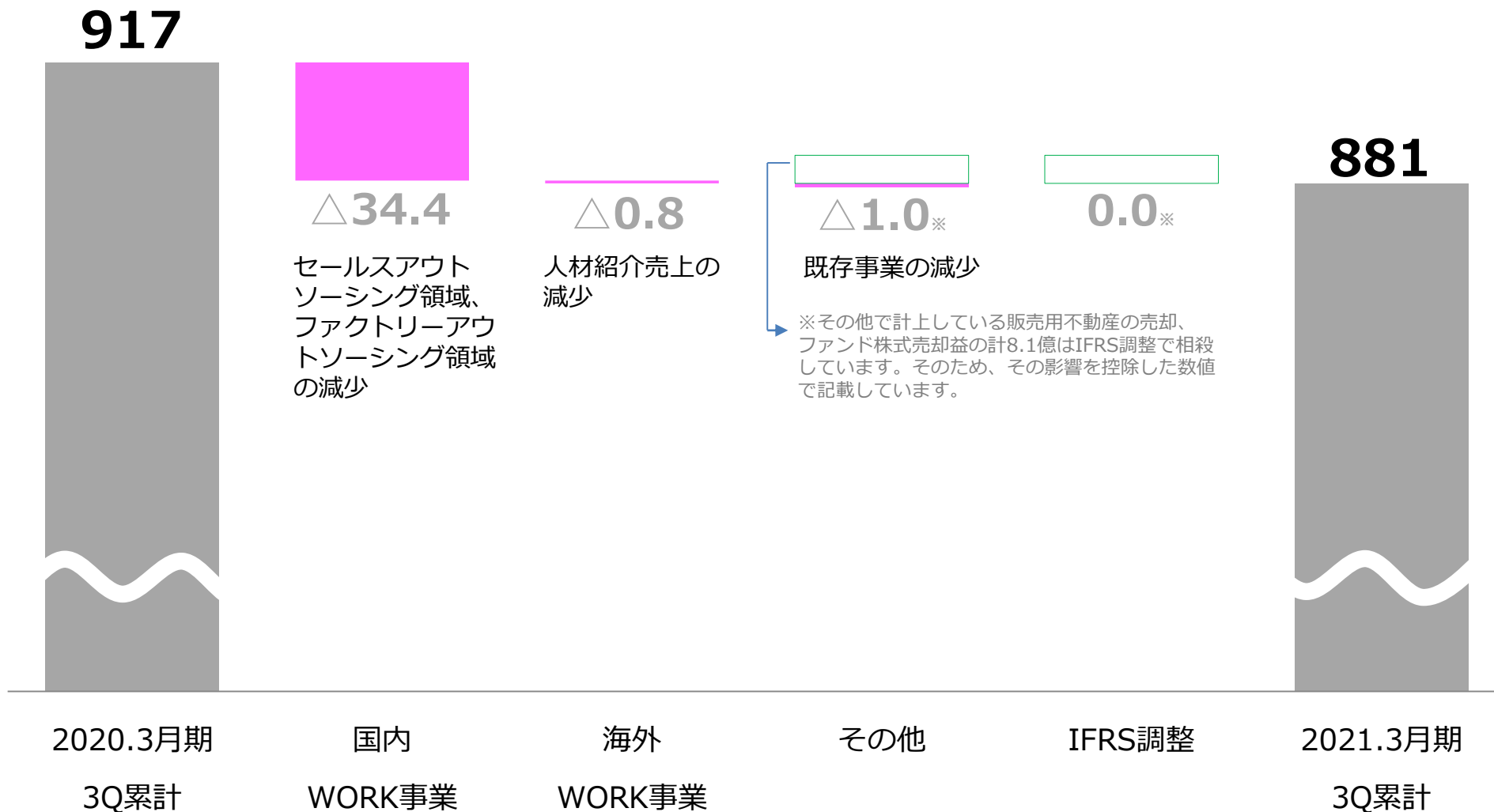
(億円)

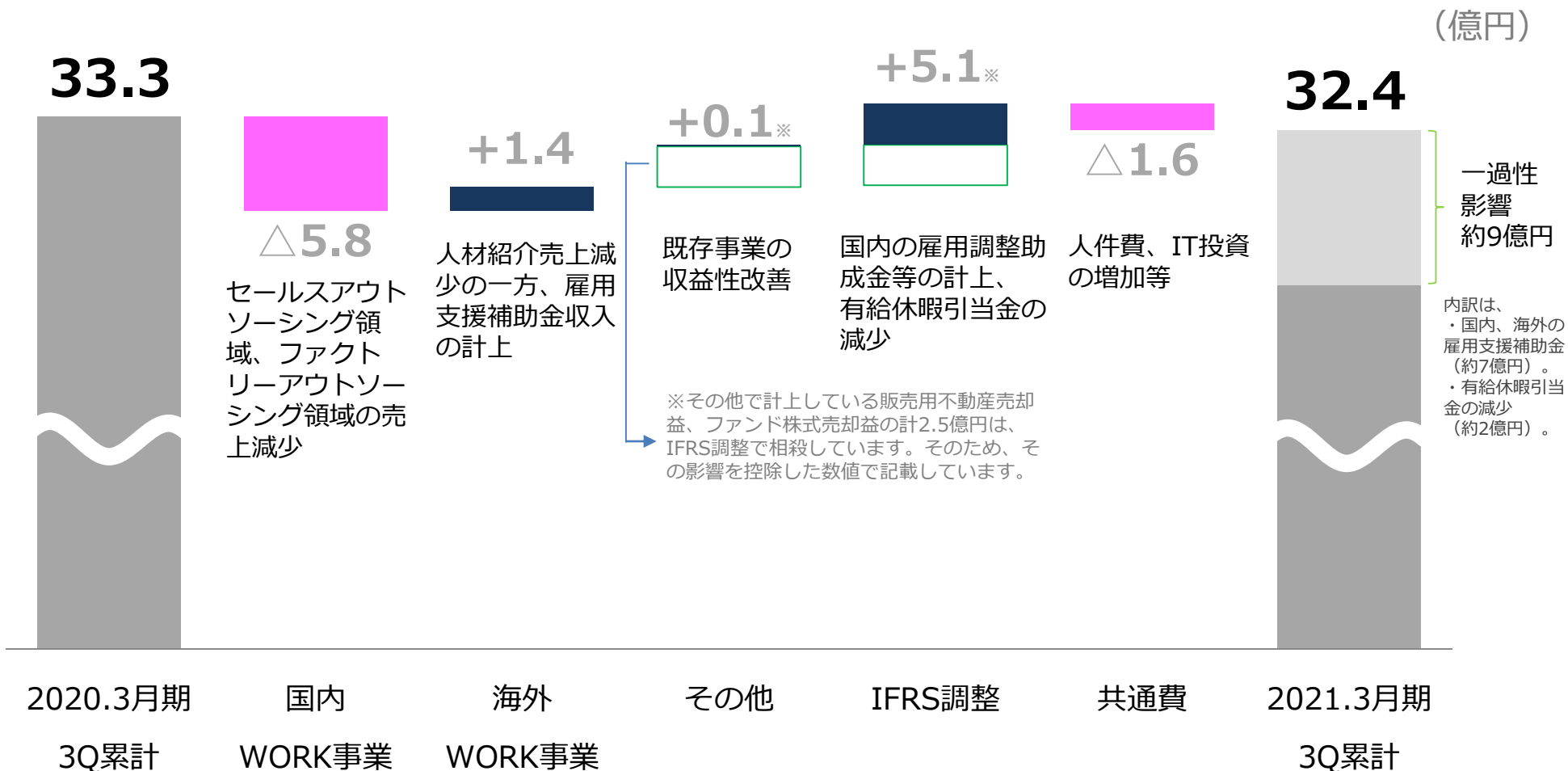


売上総利益率の低下は、
底打ち。
3Qより、採用等の投資も
概ね再開。

※21.03期の売上総利益、販管費は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

(億円)





2021年1月の緊急事態宣言の再発令及び期間延長により、アパレル分野、販売支援の分野を中心に、業績へのマイナス影響が生じる可能性を想定。

セグメント	分野	3Q時点での 新型コロナウイルスの影響及び対策
国内WORK事業	セールスアウトソーシング領域	アパレル、セールスプロモーションは厳しい状況が続くも、安定している通信、営業代行等のサービス強化。
	コールセンターアウトソーシング領域	需要は堅調なものの、新規オーダーは未だコロナ前の水準に戻っていないため、新規営業を強化。
	ファクトリーアウトソーシング領域	食品以外の分野は、減産によるオーダー減の影響は底打ち。食品、食品以外の分野ともに、収益性の低い案件を終了したことから売上は減少するも、収益性は改善。安定した食品領域の営業強化。また、入国規制緩和後に備え、技能実習生、特定技能等の外国人案件の営業強化。
	介護/保育領域	採用については、他業種からの流入影響は徐々に薄れる。介護施設の直接採用方針により、派遣オーダーは未だコロナ前の水準以下。新規施設営業強化。
	スタートアップ人材支援領域	求人案件数は、1Qを底に回復傾向にあるものの、成長基調に未だ戻らず。採用ニーズの強い企業や経営幹部層・エンジニアなど、需要の高いポジションの支援強化。
	その他	ALT派遣は、学校が再開したことで今期の売上に影響はないものの、入国制限により来年度の採用に影響あり。建設技術者派遣については、堅調な建設需要、人手不足、若手不足の業界のため、需要は堅調。未経験者採用を拡大し、新規営業強化。
海外WORK事業	シンガポール他 オーストラリア	足元では、シンガポール、オーストラリアとも新型コロナウイルス感染症拡大の抑え込みができており、徐々に収束に向かっている。そのため、コロナ前の水準までには届かないものの、人材紹介の需要は回復傾向。また、人材派遣については、安定した領域で展開しており、堅調に推移。

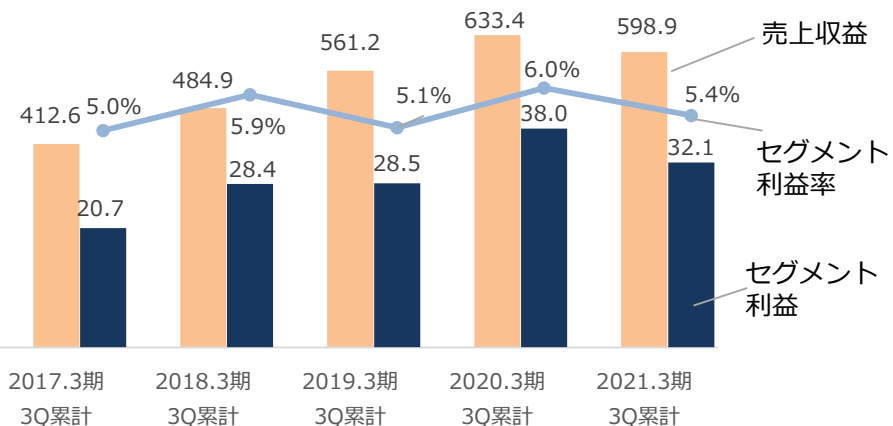
-売上収益、セグメント利益（億円）-

(億円)

実績

前年同期

前年同期比

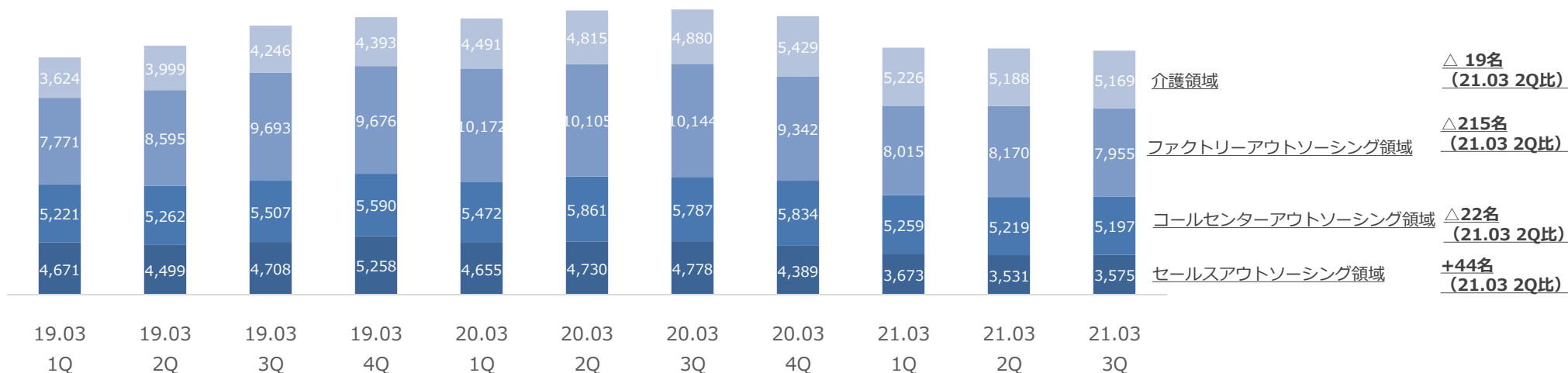


	実績	前年同期	前年同期比
売上収益	598.9	633.4	△5.4%
セグメント利益	32.1	38.0	△15.5%

-トピックス-

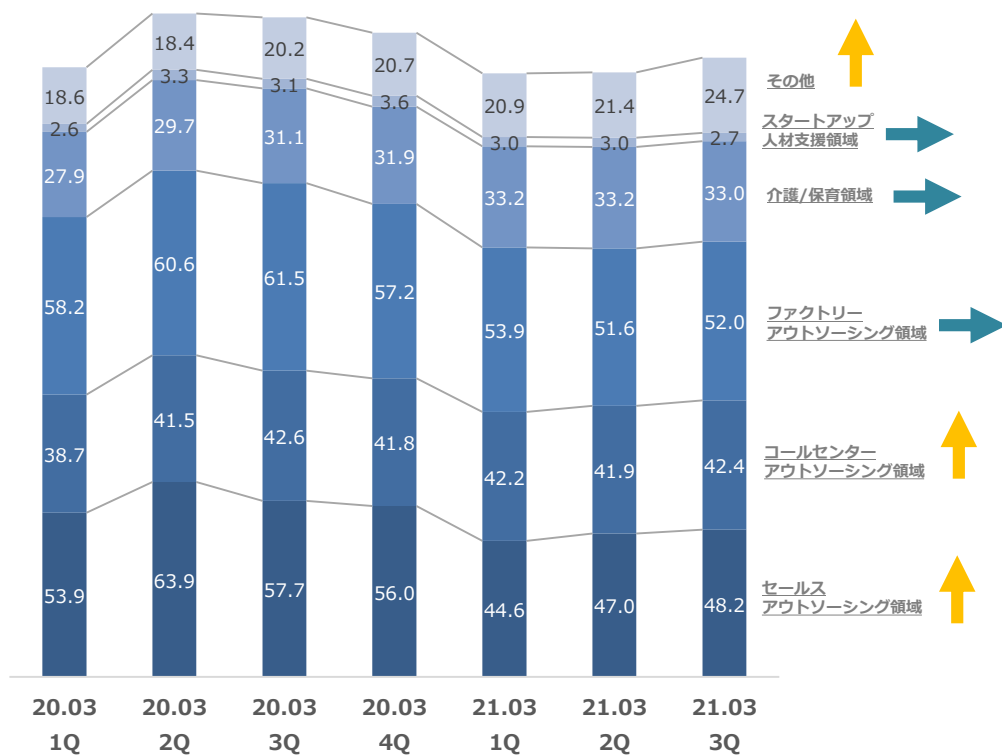
- ファクトリー領域において、収益性の低い案件の契約終了により稼働スタッフ数が減少するも、国内全体では、4Q以降改善に向かう見通し。
- 新規受注状況から採用費等をコントロール。
(採用費前年同期比：△2.4億)

-稼働スタッフ数（人）-

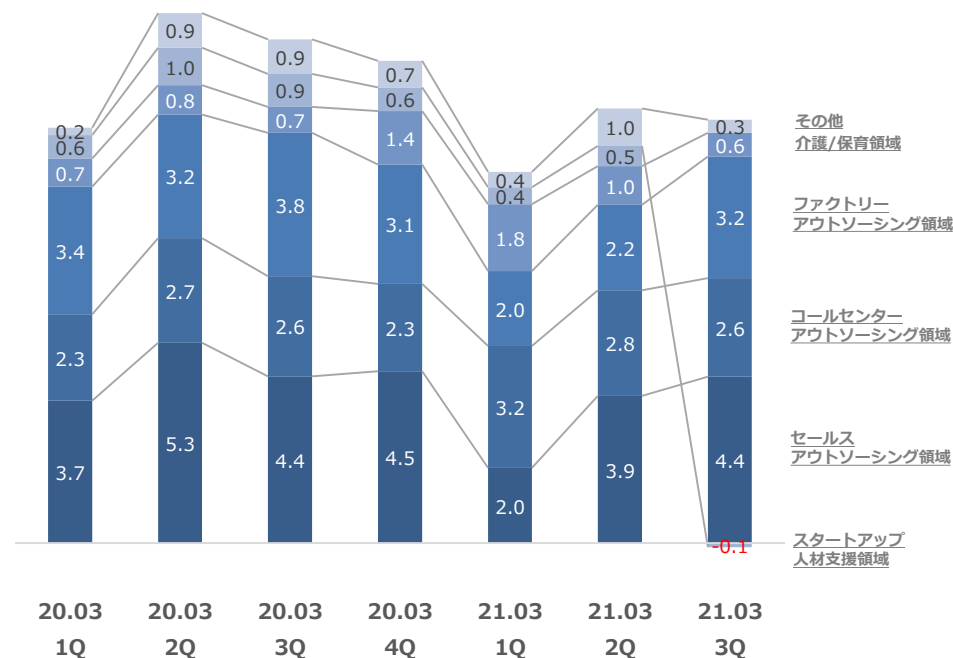


コールセンターアウトソーシング領域、介護・保育領域は、堅調に推移。
また、セールスアウトソーシング、ファクトリーアウトソーシング領域の
営業利益は、着実に改善傾向。

-領域別売上高（億円）-

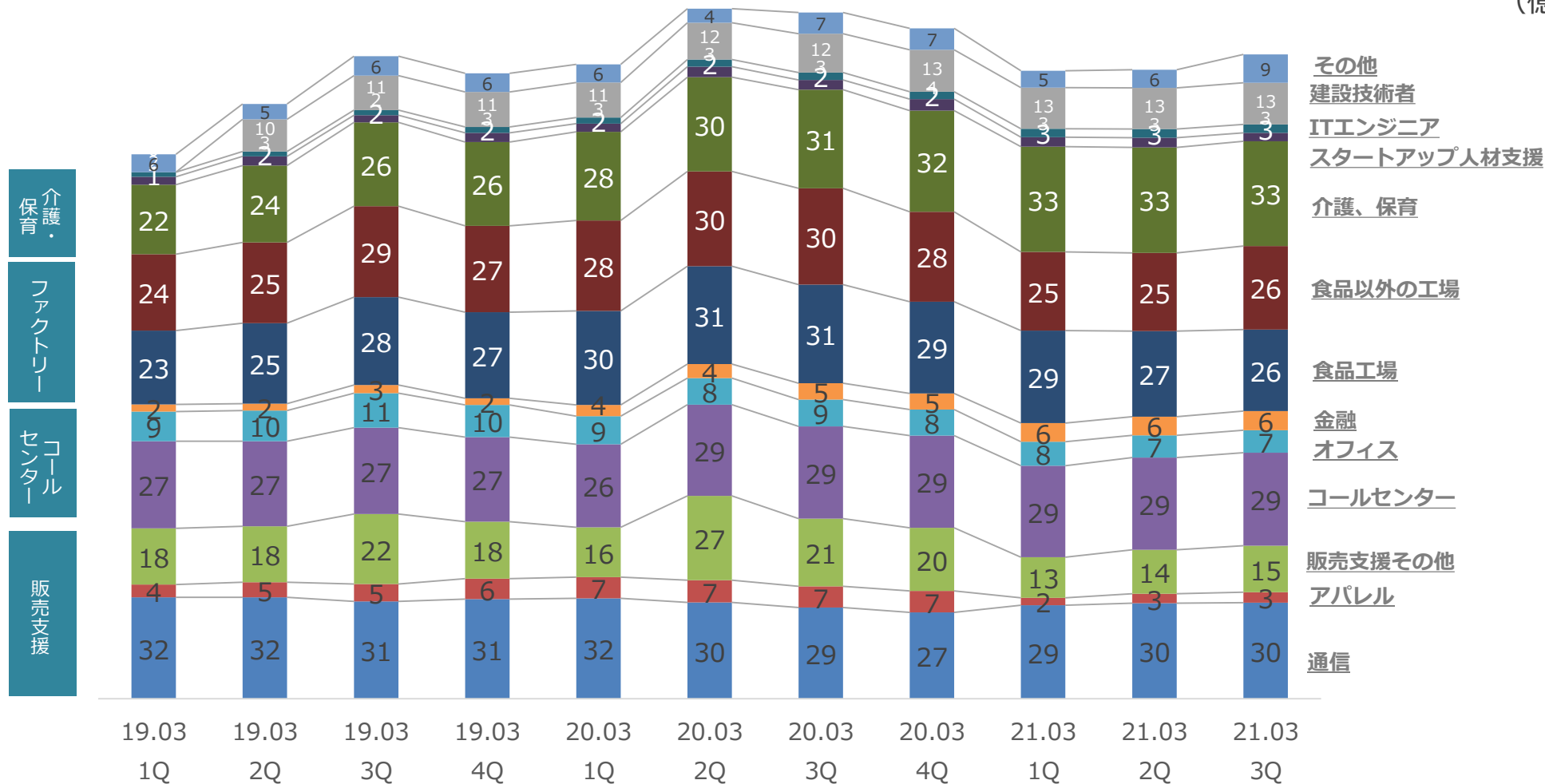


-領域別営業利益（億円）-

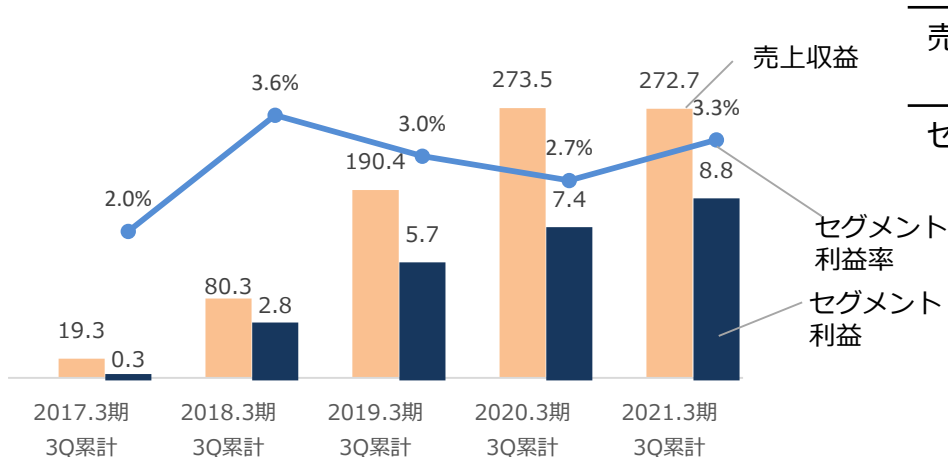


新型コロナウイルス感染拡大による業績影響のある分野は、アパレル、販売支援その他、食品以外の工場分野。

(億円)



-売上収益、セグメント利益（億円）-



(億円)

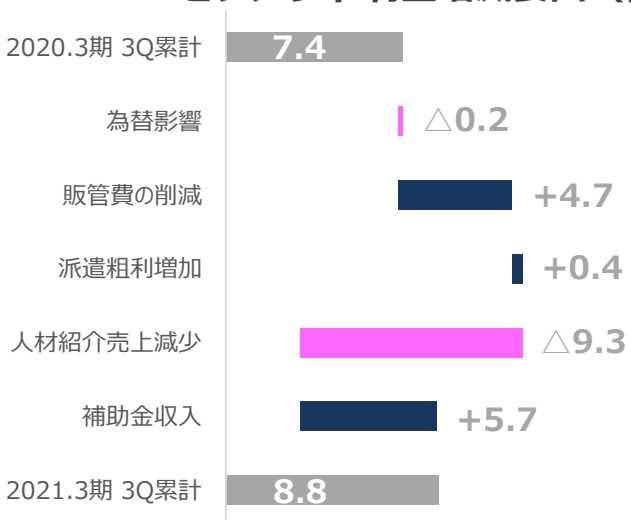
実績

前年同期

前年同期比

	実績	前年同期	前年同期比
売上収益	272.7	273.5	△0.3%
セグメント利益	8.8	7.4	+20.0%

-セグメント利益増減要因（億円）-



-トピックス-

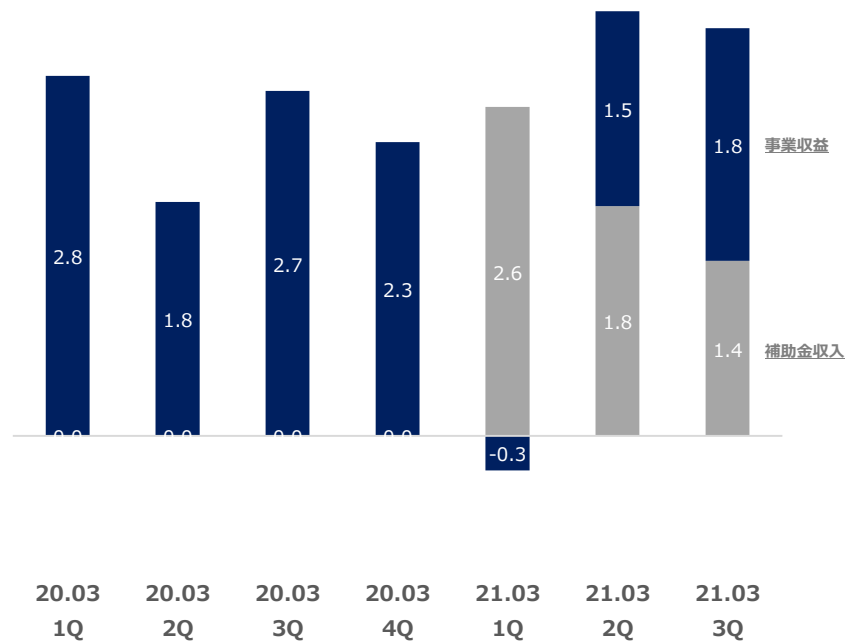
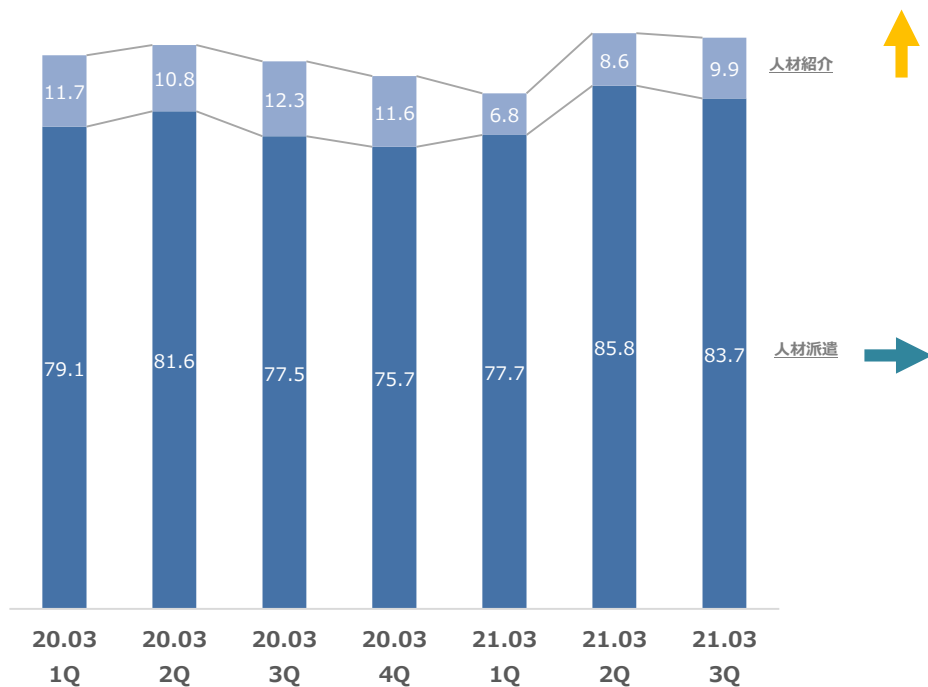
- ▶ 豪州、シンガポールとも新型コロナウイルス感染症拡大の抑え込みが出来ており、低下していた、人材紹介需要は、徐々に回復傾向。人材派遣は、引き続き堅調に推移。
- ▶ シンガポールにおける新型コロナウイルス対策としての雇用支援の補助金収入（約6億円）計上。

□ 為替感応度	当初 為替前提	3Q累計 実績	前年同期 実績	1円変動による影響額/年	
				売上収益	利益
オーストラリアドル	70円	74円	75円	3.8億円	0.1億円
シンガポールドル	75円	77円	79円	0.9億円	0.0億円

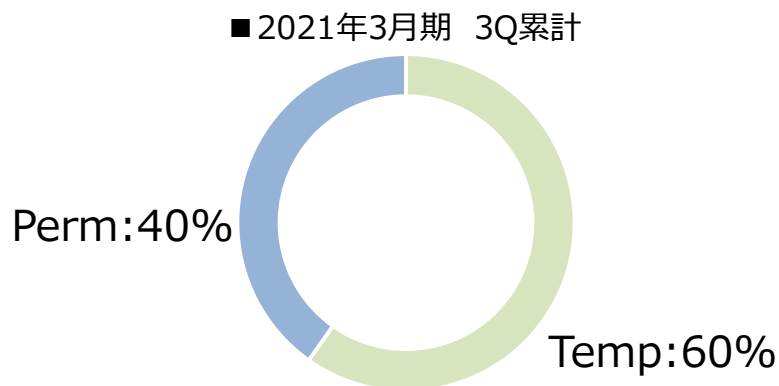
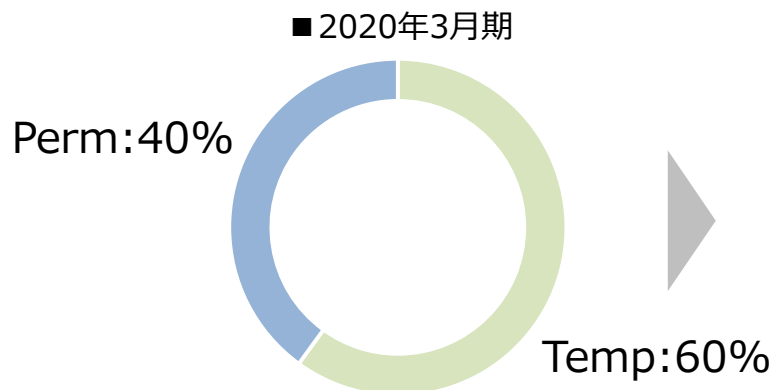
人材紹介売上が、徐々に回復してきたことにより、一過性の補助金収入の影響を除いた事業収益は、改善傾向。

-契約形態別売上高 (億円) -

-営業利益 (億円) -

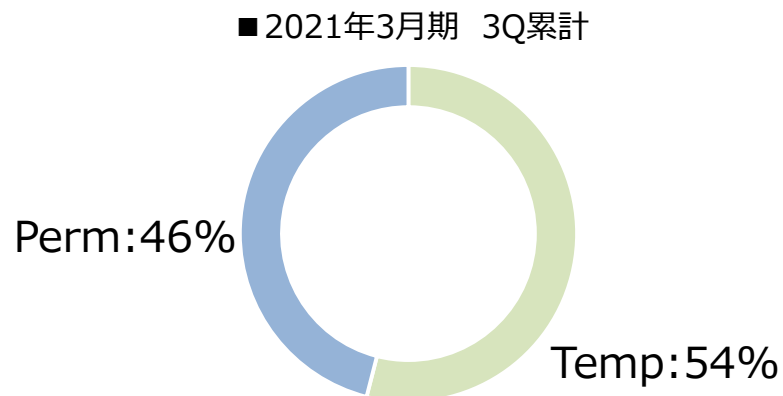
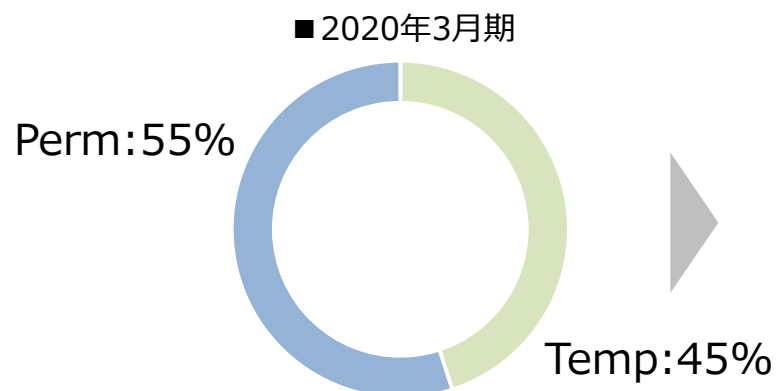


- 国内WORK事業 事業ポートフォリオ (粗利ベース) - →新中計期間最終年度目標:Temp:40% Perm:60%



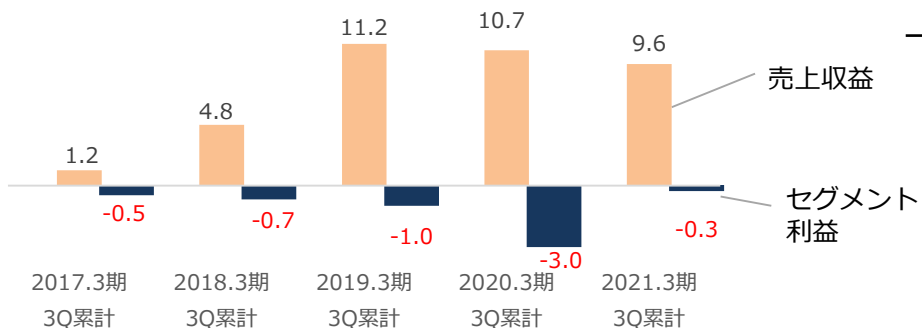
Permの内
人材紹介が苦戦。

- 海外WORK事業 事業ポートフォリオ (粗利ベース) - →新中計期間最終年度目標:Temp:60% Perm:40%



Permの内人材紹介は回復傾向にあるも、前年同期2割程度減。安定したTemp領域はコロナ禍でも堅調に推移。

-売上収益、セグメント利益（億円）-



(億円)

実績

前年同期

前年同期比

	実績	前年同期	前年同期比
売上収益	17.8	10.7	+66.0%
セグメント利益	△0.3	△3.0	-

-トピックス-

➤ HRTech分野への先行投資（3.2億円）実施。

-その他の事業内容-

オーガニック

M&A

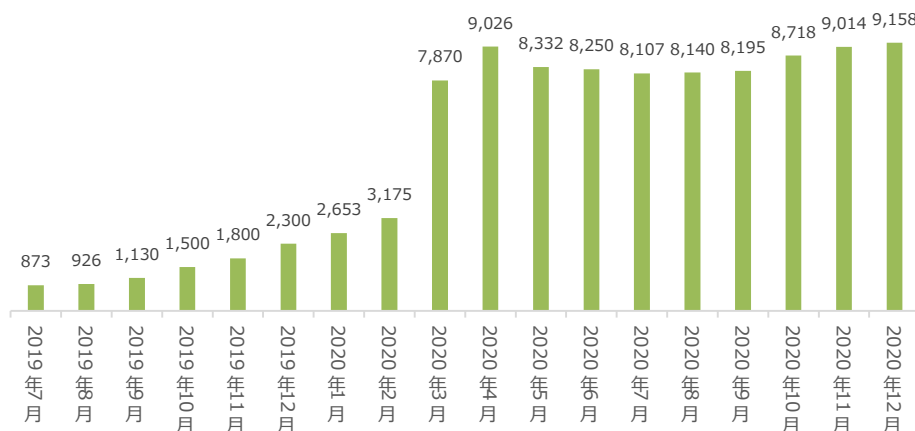


ビザマネ

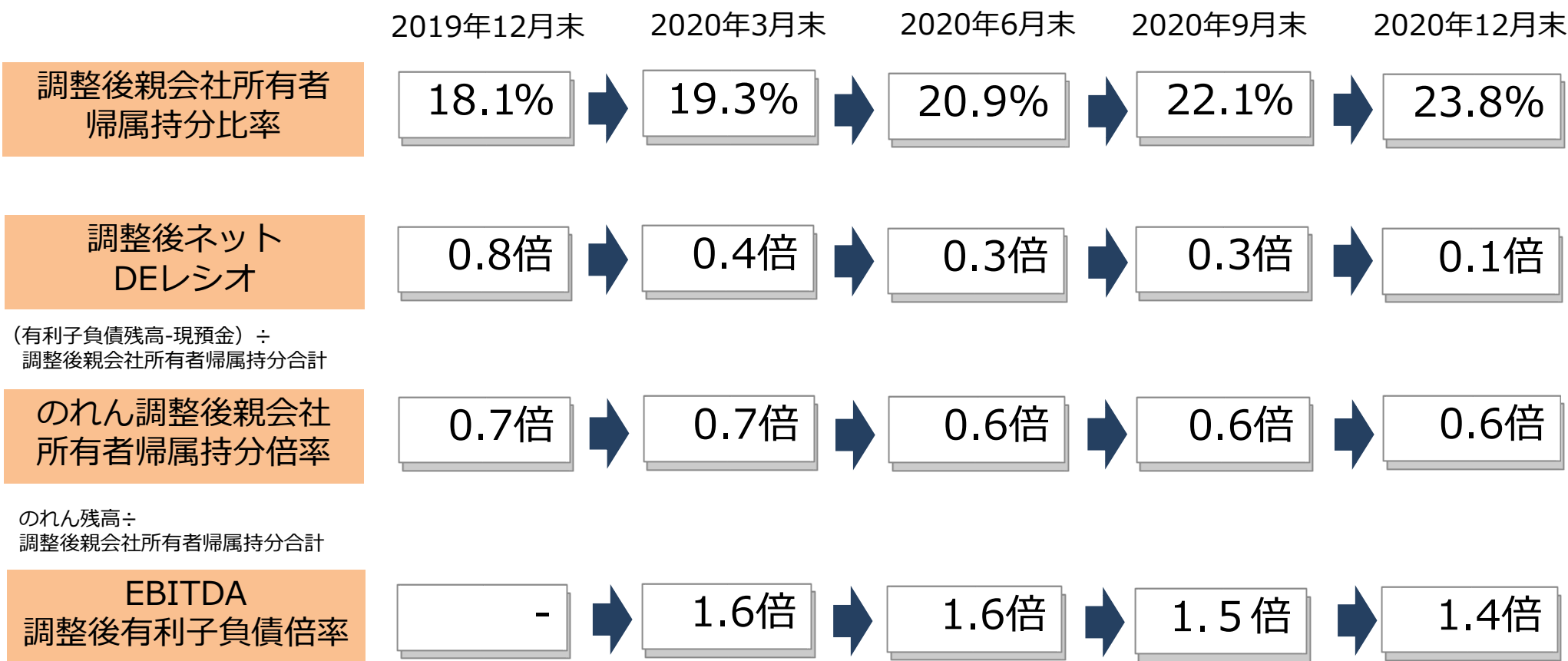


ファンド
(HRTech)

■ビザマネでの管理人数



調整後持分合計*ベースでの各財務指標は改善傾向



有利子負債残高（短期借入金除く） ÷ 予想EBITDA

* 調整後持分合計は、売建プットオプションを控除した持分合計

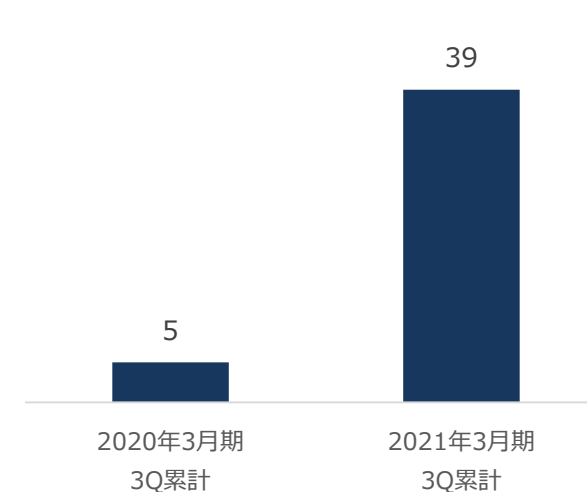
単位：億円	2020年 3月末	2020年 12月末	増減
流動資産	220	218	△1
非流動資産	225	223	△2
資産合計	446	441	△4
流動負債	215	231	+15
非流動負債	159	118	△40
負債合計	374	349	△24
資本合計	71	91	+20
負債及び資本合計	446	441	△4
親会社所有者帰属持分比率	11.7%	17.0%	+5.3pt

(増減の主な要因)

- 資産合計
 - ・ 現金及び現金同等物 +5億円
 - ・ 営業債権及びその他の債権 △11億円
 - ・ その他の金融資産（流動） +3億円
 - ・ 有形固定資産 △1億円
 - ・ 使用権資産 △11億円
 - ・ のれん +2億円
 - ・ その他の無形資産 +4億円
 - ・ 持分法で会計処理されている投資 +6億円
 - ・ その他の金融資産（非流動） △2億円
 - ・ その他の非流動資産 △1億円
- 負債合計
 - ・ 営業債務及びその他の債務 +7億円
 - ・ その他の金融負債（流動） +16億円
 - ・ 未払法人所得税 △7億円
 - ・ 借入金（非流動） △19億円
 - ・ その他の金融負債（非流動） △20億円
- 資本合計
 - ・ 自己株式 △1億円
 - ・ 利益剰余金 +15億円
 - ・ 在外営業活動体の換算差額 +9億円
 - ・ 非支配持分 △2億円

(億円)	2020年3月期 3Q累計	2021年3月期 3Q累計	(増減要因)
税引前利益	32	30	
減価償却費及び償却費	14	15	
法人所得税の支払額	△14	△17	
その他の営業活動	2	17	
営業活動によるキャッシュ・フロー	34	46	営業債権の減少
有形固定資産等の取得及び売却	△4	△4	
子会社株式の取得及び売却	△20	—	
その他の投資活動	△3	△1	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29	△6	M&A投資減少
有利子負債の純増減	△16	△29	
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得及び売却	△2	△7	
支払配当金	△4	△5	
政府補助金による収入	0	10	
その他の財務活動	△2	△4	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△25	△35	有利子負債減少
換算レートの変動に伴う影響額	△2	1	
現金及び現金同等物の増減額	△23	5	
現金及び現金同等物四半期末残高	45	64	
フリーキャッシュ・フロー（営業C/F+投資C/F）	5	39	

フリーキャッシュフロー推移 (億円)



Ⅱ .2021年3月期 業績予想/配当予想

3Q累計では、業績予想の進捗ペースを上回るも、4Qでは、
 ・来年度以降に向けた投資（人件費、採用費、ブランドプロモーション費用等）の増加
 ・足元の新型コロナウイルス感染症拡大による影響
 を見込んでいることにより、通期業績予想は据置。

前期比

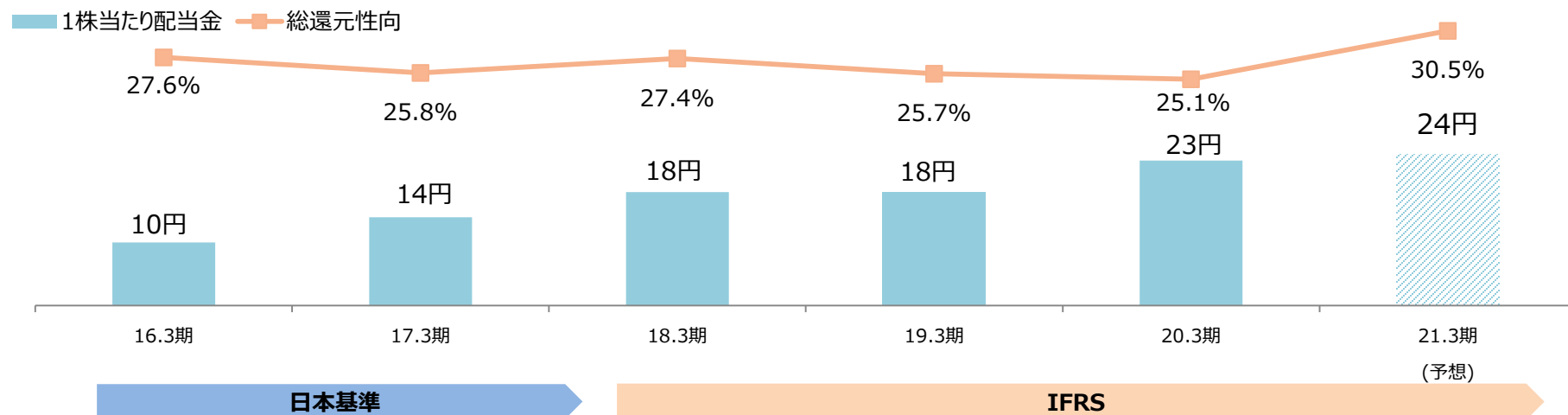
(億円)	前期実績	業績予想 (2020/11/9公表)	増減額	増減率
売上収益	1,219.1	1,160.0	△59.1	△4.9%
うち国内WORK事業	844.3	806.1	△38.2	△4.5%
うち海外WORK事業	360.7	340.5	△20.2	△5.6%
うちその他	15.4	21.5	+6.0	+38.9%
うちIFRS調整	△1.4	△8.1	△6.7	-
営業利益 (営業利益率)	41.4 (3.4%)	34.0 (2.9%)	△7.4 (△0.5pt)	△18.0%
うち国内WORK事業	50.6	42.5	△8.0	△16.0
うち海外WORK事業	9.7	8.8	△0.8	△8.9%
うちその他	△3.5	△1.3	+2.1	-
うち調整額	△18.6	△23.6	△4.9	-
うちIFRS調整	3.3	7.6	+4.2	+127.6
親会社の所有者に帰属する当期利益	23.8	17.5	△6.3	△26.5%
EBITDA	61.3	54.0	△7.3	△12.0%

期末配当予想は、前期実績+1円の24円の見込み。

	前期実績	配当予想 (11/9公表)
期末配当	23円/株	24円/株
総還元性向*	25.1%	30.5%

*総還元性向:親会社の所有者に帰属する当期利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

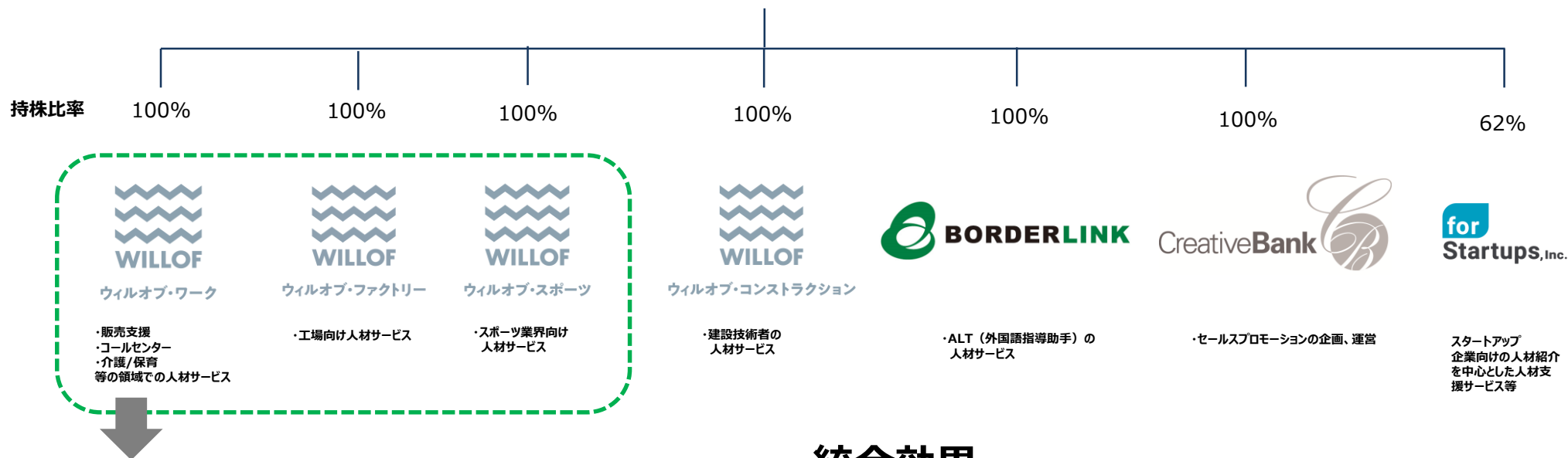
■ 1株当たり配当金、総還元性向の推移



1株当たり配当金は、2016年12月1日（1対2）の株式分割を遡及計算して記載しております。

Ⅲ. トピックス

高収益化、「WILLOF（ウィルオブ）」ブランドの強化を目指すため、子会社を統合し、経営の効率化を図る。



ウィルオブ・ワークを存続会社として3社を合併
 -2021年4月1日 ウィルオブ・スポーツを吸収合併
 -2021年7月1日 ウィルオブ・ファクトリーを吸収合併

統合効果

- 営業拠点の共有化
- 管理部門の統合
- 求職者により多くの求人提供が可能

IV. 參考資料

現時点の対応方針

(従業員)

- ・引き続き在宅勤務を推奨。ただし、緊急事態宣言発令時は在宅勤務義務化。
- ・対面打ち合わせを自粛し、Web会議や電話会議を積極活用。

(事業)

- ・アフターコロナを見据え、スタッフ、従業員の雇用を重視。
- ・新型コロナウイルスによる影響の少ない事業への人員のシフト。
- ・新規投資計画の一部見直しによる利益確保と資金繰りの安定化。

→アフターコロナを見据え、ウィズコロナ下において状況を慎重に見極めつつ、機動的に対応

【国内WORK事業】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	17,149	18,734	20,242	19,702
2020.3月期	19,984	21,741	21,639	21,098
2021.3月期	19,782	19,814	20,301	

【海外WORK事業】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	5,798	6,286	6,959	7,197
2020.3月期	9,098	9,257	8,995	8,723
2021.3月期	8,457	9,444	9,369	

【その他】

■ 売上収益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	578	264	286	422
2020.3月期	290	364	452	483
2021.3月期	885	611	293	

単位：百万円

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	715	913	1,226	1,210
2020.3月期	1,091	1,392	1,310	1,279
2021.3月期	974	1,141	1,102	

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	268	208	101	△149
2020.3月期	283	184	270	232
2021.3月期	232	334	321	

■ セグメント利益

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	△37	△55	△13	42
2020.3月期	△84	△134	△72	△80
2021.3月期	△98	153	△90	

単位：百万円

■ 売上収益（アジア）

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	1,338	1,412	1,442	1,700
2020.3月期	1,923	1,967	1,999	2,070
2021.3月期	1,285	1,482	1,768	

■ 売上収益（オーストラリア）

	1Q	2Q	3Q	4Q
2019.3月期	4,468	4,881	5,523	5,508
2020.3月期	7,184	7,299	7,014	6,672
2021.3月期	7,181	7,972	7,627	

当社のビジネス環境



足元では、新型コロナウイルス感染拡大の抑え込みが出来ていることから、事業への影響が収束に向かう。そのため、コロナ前の水準には届かないものの、人材紹介需要は、回復傾向。人材派遣については、政府系、IT、ファイナンス、リーガルについては安定的な需要があり、堅調に推移。

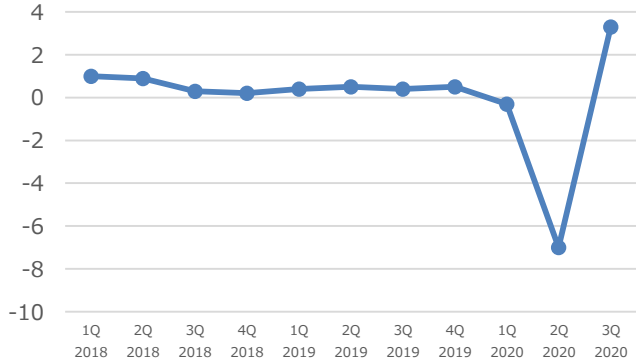


豪州同様、人材紹介の需要は回復傾向。人材派遣については、不景気であっても一定の採用ニーズがあることから、人材派遣にシフト。

関連経済指標

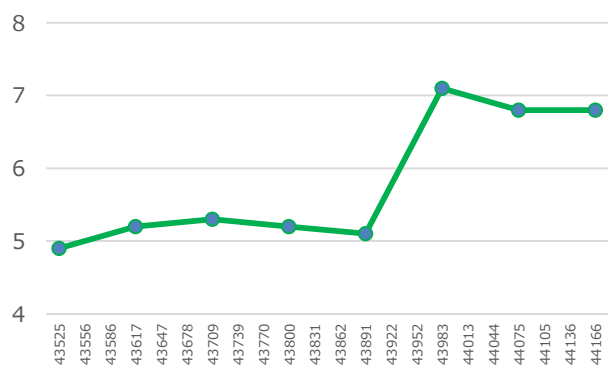
■ 実質GDP成長率（前期比）

*出典：豪州統計局



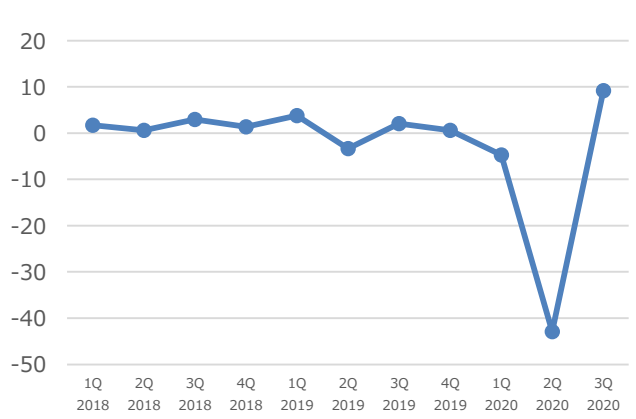
■ 完全失業率

*出典：豪州統計局



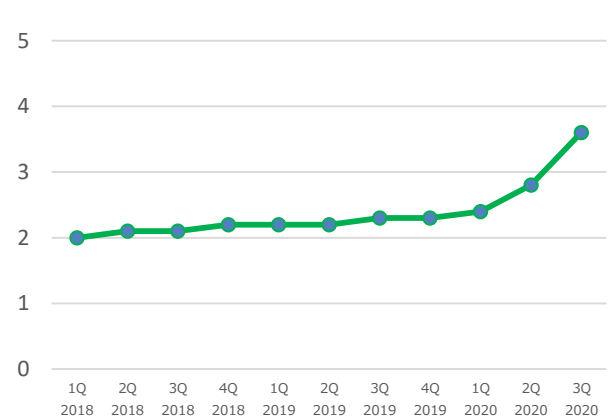
■ 実質GDP成長率（前期比）




*出典：シンガポール統計局



■ 完全失業率

*出典：シンガポール統計局



単位：億円	主要拠点	事業内容	連結開始 (株式 保有率)	投資 残高 *1	*2	2020.3期 3Q累計	2021.3期 3Q累計	前期比
	シンガポール	シンガポールを中心に、香港、日本、米国、中国、オーストラリア及び英国の各国の完全子会社を通じて、HR領域に特化した人材紹介、コンサルティング事業を展開。	2019/1 (51%)	14.7	売上	11.1	8.1	△27.2%
					利益 *3	3.5	2.4	△30.1%
	ブリスベン	オーストラリアにおいて、政府機関及び大手企業に対して人材紹介及び人材派遣を展開。	2019/4 (80%)	15.1	売上	46.5	45.1	△3.0%
					利益	4.3	4.2	△4.4%
	メルボルン	オーストラリアにおいて、政府機関、通信企業、エネルギー企業、電化製品製造業等、様々な業界の機関・企業に対し、事務職、コールセンター関連職の人材紹介及び人材派遣を展開。	2018/1 (80%)	8.6	売上	85.3	93.2	+9.2%
					利益	2.6	2.3	△9.7%

*1 投資残高は、のれん残高と識別可能な無形資産残高の合計です。

*2 連結開始時期を問わず、売上、利益の実績については連結会計期間の4月-12月の実績を記しています。

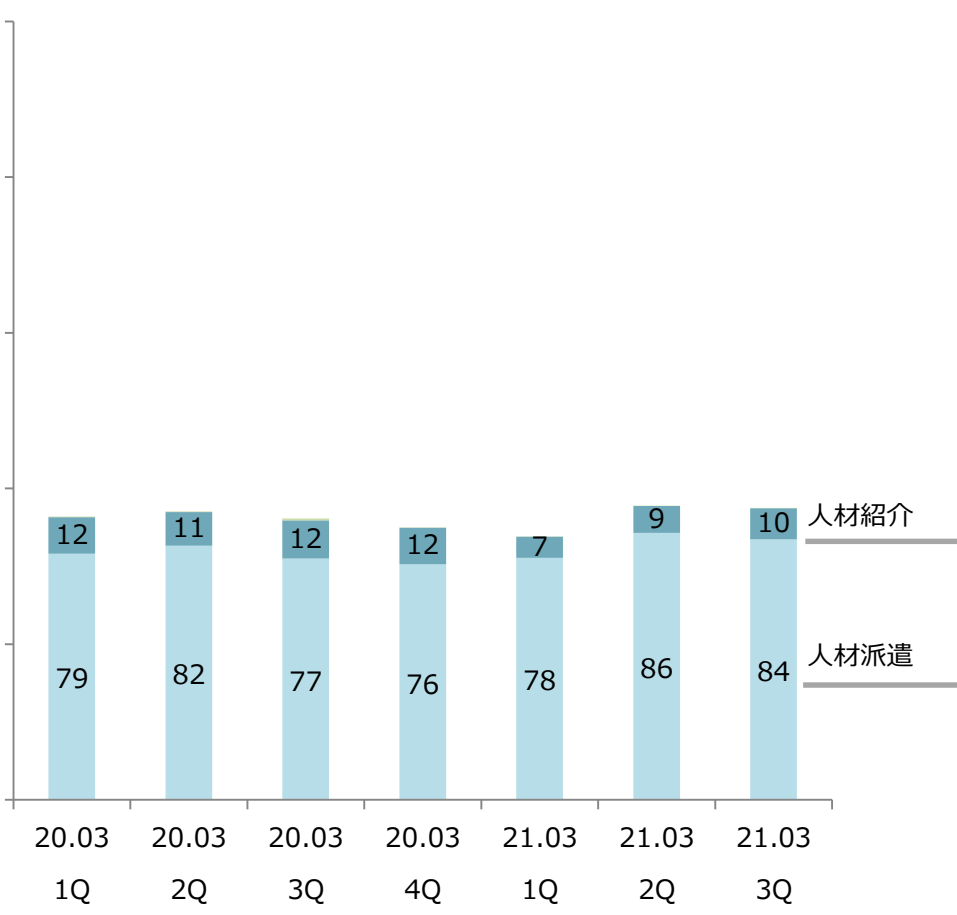
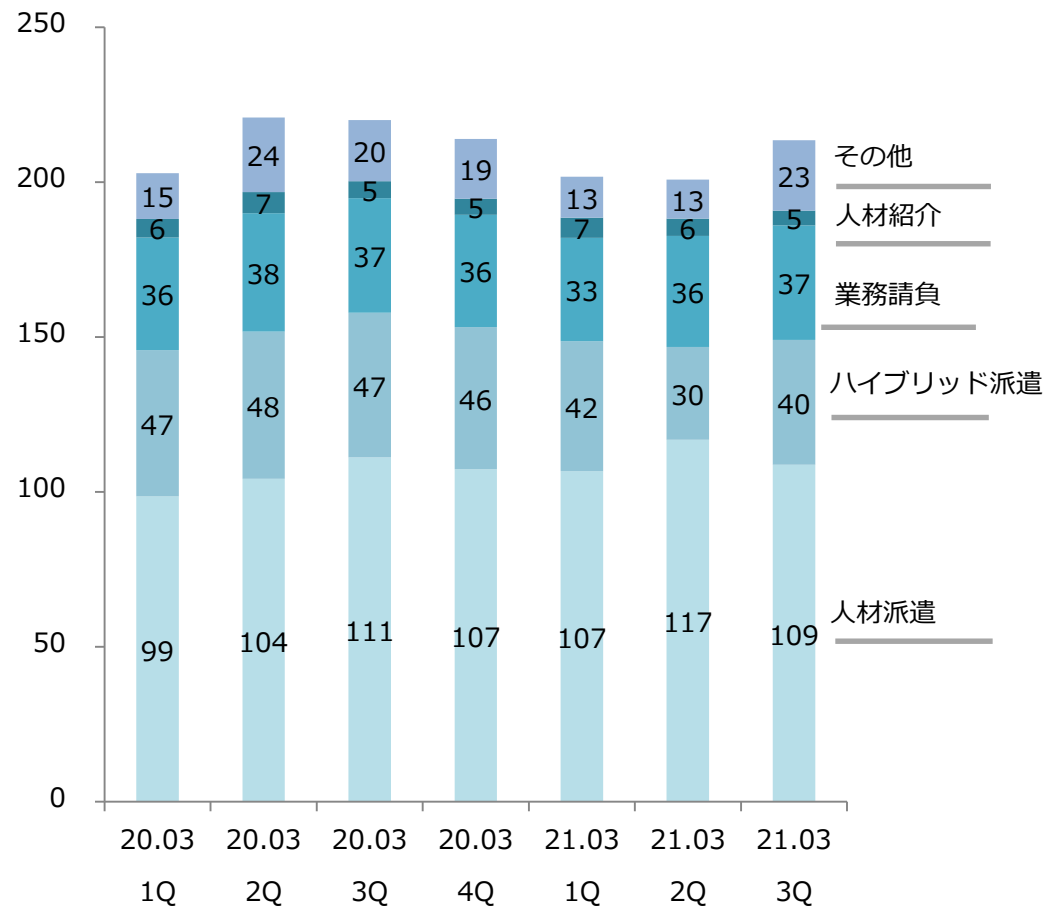
また、為替影響を除くため、1シンガポールドル=75円、1オーストラリアドル=70円で換算しています。

*3 利益については、識別可能な無形資産の償却額、内部取引、一時的に発生した費用を除いた税引前利益です。

国内人材サービス

海外人材サービス

(億円)





WILL GROUP

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ IRに関するお問い合わせ先

株式会社 ウィルグループ

財務部 IRグループ